

人づくり、芸術・文化の振興に貢献した活動を顕彰 一関文化賞として顕彰

式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正 好

皆様、今日は。本日は御多用中にも拘らず、令和7年度第35回「一関文化賞」の表彰式にご出席下さり誠に有難うございます。又、ご来賓として一関市長佐藤善仁様をはじめ、沢山の方々の御臨席を賜り心より感謝申し上げます次第です。

昔から私達日本人は、スポーツの秋・読書の秋そして芸術や文化の秋と馴れ親しんで参りました。正に菊の花が美しく薫る今は、文化の秋にぴったりで「一関文化賞」の表彰式を挙行できますことは本当に喜ばしく、平和とか平穏な日常の有難さを改めて噛みしめる思いであります。

さて私共一関文化会議所では、「ふるさと創生」「文化の創造」を目的とし「潤いのあるまちづくり」を目指して各種事業に取り組んでおります。その中で顕彰事業としての「一関文化賞」は、文化・芸術の振興並びに活力のあるまちづくりや人づくりの分野で、着実にそして真摯な活動や研究を積み上げられた方々に心より敬意を表し顕彰させて頂いております。

今年度の「一関文化賞」は、人づくり部門「原田良一」様、芸術文化部門「佐藤テル子」様、地域文化部門「時の太鼓顕彰会」様です。それぞれの方々のご活動ぶりや輝かしいご功績につきましては、この後阿部奨励委員長から具体的に詳しくご紹介申し上げます。

本日受賞された皆様方は、今後さらに充実した活動に邁進され、当一関地方の歴史と文化の創造や継承発展のために益々ご貢献ご活躍されることを心よりご祈念申し上げまして私の式辞と致します。受賞者の皆様と関係者の皆様、本日は誠に有難うございます。



内田理事長



時枝教育長（市長代理）

令和7年度(第35回)一関文化賞

人づくり部門
芸術文化部門
地域文化部門

原 田 良 一 氏
佐 藤 テ ル 子 氏
時の太鼓顕彰会

奨励委員会 委員長 阿 部 了 子

第35回となる令和7年度一関文化賞の表彰式は、11月20日、一関文化センター中ホールを会場に執り行い、当地域において文化の振興に貢献された2個人1団体を表彰しその功績を讃えました。

式では内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂くとともに、それぞれの活動などが発表されました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



左から、原田良一氏、佐藤テル子氏、
時の太鼓顕彰会 和泉拓磨会長

【受賞者の紹介】

一関文化賞「人づくり部門」

原 田 良 一 氏

原田良一氏は昭和28年千厩町に生まれ、東京で料理人として修業後帰郷し、昭和53年に両親から受け継いだ「あさひや食堂」を「レストランあさひや」としてリニューアルオープンしました。

以来、「料理で幸せになってもらいたい、笑顔になってもらいたい」という思いや小学時代から打ち込んだ柔道を通して学んだ「自他共栄」の理念で、食に関わる様々な活動を行う一方、「ディシプル・ド・オーギュスト・エスコフィエ」というフランス料理人最高の称号を得られています。

食に関わる活動では、フランス発祥の「味覚の授業」が日本の小学校で始まってから20年以上にわたって地域の小学校に出向き、様々な味覚体験の中から基本

となる味の理解や五感を使って料理を味わうことの大切さを伝え、味覚に対する感性の育成に尽力されています。

また、小・中学校での「シェフのスーパー給食」や親子での料理教室、高校生や地域住民に対するテーブルマナーや調理教室の開催などを通して、多様な調理法や食べ方の提案、食への確かな理解や食べる喜びの体感、生活スタイルの中での食べ物の役割の重要性の伝達など、生きる上での基本となる食を追求する意識の涵養に努めてこられました。

さらに、東日本大震災後は、100回以上の炊き出し支援・仮設住宅での料理教室・被災地の方を店に招待するなど、料理人だからこそその被災地支援を最前線のシェフという矜持をもって実施されました。近年では「TGC teen ICHINOSEKI」の出演者やスタッフ向けに一関の食材を使用したメニューを提供するなど、食を通じた様々な地域貢献活動も行っています。

原田氏のこのような活動は、健全な食生活を実践することのできる人づくりの取組として、その功績は多大なものがあります。



今後の活動への決意等を述べる原田さん



表彰状と記念品を授与

一関文化賞「芸術文化部門」

佐藤 テル子 氏

佐藤テル子氏は昭和27年旧衣川村に生まれ、高校卒業後上京し山田流箏曲を学びました。帰郷後生田流箏曲に転向、平成2年生田流宮城社師範を取得し、平成6年に生田流箏糸会を結成し主宰となりました。

箏糸会結成の目的を「箏・三絃の演奏技能の向上、生涯学習を通して地域文化の伝承活動及び親睦と交流を図る」とし、その達成を目指し様々な活動を実践しています。

「野点ころもがわ」での野外演奏、岩手芸術祭移動公演（川崎公演）、一関市民オーケストラと歌う市民大音楽祭、岩手三曲協会記念演奏会などに出演、平成21年・22年文化庁委嘱事業「伝統文化お箏子ども教室」や小・中学校の邦楽実技体験授業で子どもたちに対して体験の機会を提供、平成24年からは毎年様々な団体

（中国古箏・長唄・朗読・合唱・お茶裏千家・日本舞踊・詩吟等）とのコラボレーションによる箏曲発表会を開催するなど、多くの人に箏・三絃の音色に触れ関心を持って見聞きしてほしいという強い思いを持って普及に貢献しています。

平成17年から岩手県立千厩高等学校箏曲部のコーチとなり、奏法技能とともに精神面の指導にも熱心に取り組んでおり、毎年高校総合文化祭・日本音楽部門に出演し、岩手県代表として全国大会にも5回出場しています。生徒達は喜びと感動が忘れられない体験となり、社会人になってもお箏に親しむ人も現れています。

また、放課後こども教室・放課後児童クラブ等でお箏の体験教室を開催し、市民センターまつりで発表するなど子供達に新しい発見や興味関心そして挑戦心・達成感を育みたいと取り組みを続けています。

このように佐藤氏は、伝統文化の継承を地域において、とりわけ次代を担う子供達にも重きを置いて活動し、その功績は多大なものがあります。



箏糸会会員の皆さんと箏の演奏を披露する佐藤さん（中央）

一関文化賞「地域文化部門」

時の太鼓顕彰会

江戸時代に一関藩で打ち鳴らされた「時の太鼓」の伝承に努める「時の太鼓顕彰会」は令和7年に創立50周年を迎えます。

「時の太鼓」は「一関に過ぎたるものは二つあり」と名医・建部清庵と並び称され、城下町に時刻を告げるために、幕府から特別に許可を得て毎日定刻に打ち鳴らしたとされるものであり、昭和50年に当時の一関青年会議所の有志が「時の太鼓」の歴史と伝統を市民に知ってもらおうと、「時の太鼓市民の会」を発足し、「他のまちに真似ができない祭を」という想いから一関夏まつりに太鼓巡行として参加を始めました。

昭和57年に会の名称を現在の名称に変更し、翌年には東北新幹線開業を祝して「2代目時の太鼓」が制作されました。以降、恒例となった「2代目時の太鼓大巡行」で毎年、夏まつりを盛り上げるとともに、単独のコンサートや東北太鼓フェスティバルなど県内外の演奏会やイベントにも多数出演し、演奏を披露しています。

近年は、夏まつりの巡行では演舞団体や学生、一般

参加の方々も加わった総勢約160名で踊りを交えた巡行を行っているほか、文化の次世代継承のきっかけづくりとして太鼓の演奏を行っている市内の中学校、高校でワークショップを開催するなどして伝承に努めています。

現在の会員は65名で、週2回練習を行っており、中高生など若い世代の入会も増えています。

「時の太鼓顕彰会」のこうした半世紀にわたる活動は、地域の文化、歴史の伝承や地域活性化に大いに貢献するものであり、その功績は多大なものがあります。



時の太鼓の歴史と会の活動状況を紹介する和泉会長

一関ふるさと学習院「義経伝説の世界」

事業委員会 委員長 畠 山 篤 雄

今年度は源義経にまつわる伝説やエピソードを取り上げ、多くの皆さんに受講いただきました。史実や伝説を踏まえながら講師が提示する資料や考えに、新たな気づきを得た参加者も多かったようです。



現地探訪：あつかし歴史館（国見町）にて

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月24日	講座「源義経の実像と伝説の醸成～『義経記』成立前夜」	奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学聖地学研究センター 協力研究員 前川佳代氏	60人
2	7月18日	講座「義経北行伝説の世界」	岩手大学 客員教授 千葉信胤氏	55人
3	9月19日	講座「義経はなぜ腰越に留め置かれたのか～鎌倉人の境界認識～」	鎌倉市教育委員会 主事 鈴木弘太氏	63人
4	10月16日	現地探訪「国見町に義経伝説を訪ねる」 見学先：福島県国見町、宮城県白石市	岩手大学 客員教授 千葉信胤氏	41人

研修・視察事業「米沢に上杉鷹山のまちづくりを学ぶ」

総務委員会 委員長 佐 藤 賢 治

6月18日、スタッフ含め64人で米沢を訪れ、名君と名高い上杉鷹山の藩政改革などに理解を深めました。上杉博物館、上杉神社の見学では、地元の「おしょうしなガイド」の郷土愛あふれる熱心な案内が好評で「もっと時間がほしかった」との声も。



上杉鷹山公銅像前にて



ガイドさんの背中

東大生出前科学授業 「想像の何倍も楽しかった！」

子ども委員会 委員長 佐 藤 健 三

東京大学サイエンスコミュニケーションサークル「CAST」メンバー8人による出前科学授業を、8月27日に千厩と室根、28日に藤沢の各中学校で行いました。

大学生との交流がより図れるよう「質問・交流タイム」を設けたり大学生が自らの中学時代や将来の夢を語るなど、キャリア教育につながるよう取り組みました。

「化学は身近なところに潜んでいる」、「体験しなければわからない」という声や、実験をさらに発展させた仮説を思いついた生徒もあり、科学への興味を引き立てることができました。



飛び出る泡にあわてる（化学ブース）

春休み親と子のコンサート

音楽の絵本

0歳から
入場OK!



- ▶ 令和8年3月21日（土）開演 午後1時
- ▶ 一関文化センター 大ホール
- ▶ 全席指定
- ▶ 大人券 1,400円（当日1,700円）
- ▶ カンガルー券 1,400円（当日1,700円）
- ▶ 子ども券（中学生まで）600円（当日700円）
- ▶ 3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上での鑑賞無料（カンガルー券をご購入下さい）
- ※ 席が必要な場合は子ども券をご購入下さい
- ▶ チケット：文化センターまたはインターネットで
1月15日（木）前売り券発売開始